

研究

研究活動トピックス 詳細

HOME 研究 研究活動トピックス 詳細

研究 2014年11月14日

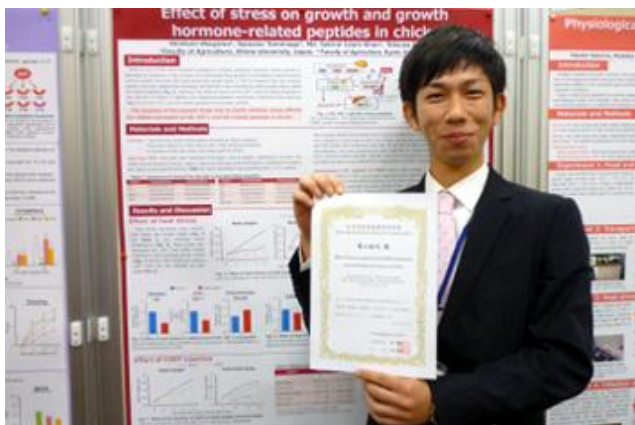
大学院農学研究科2年生の奥山裕文さんらが、「第39回日本比較内分泌学会大会・第8回国際両生類爬虫類神経内分泌学会合同大会」で、若手研究者最優秀発表賞を受賞しました【11月8日(土)】

平成26年11月7日(金)～9日(日)、岡崎コンファレンスセンターで開催された「第39回日本比較内分泌学会大会・第8回国際両生類爬虫類神経内分泌学会合同大会」で、大学院農学研究科2年生の奥山裕文さんらが若手研究者最優秀発表賞を受賞しました。

奥山さんは、大学院農学研究科生物生産システム学専門教育コースに在学し、現在、農学部畜産学研究室で、ニワトリヒナの成長とストレス反応機構の解明に取り組んでいます。今回、受賞した研究テーマは、「Effect of stress on growth and mRNA expressions of growth-related hormones in chicks」であり、農学部の橋哲也准教授との共同研究です。

養鶏の現場では、ニワトリは様々なストレスに曝されており、それらの中にはニワトリの成長や産卵、生命にまで悪影響を与えるものがあることが知られています。そこで、効率的な家禽生産を目標として、ヒナにおけるストレス反応機構の解明に取り組んできました。現在は、ストレスに関わるホルモンに注目して研究を進めており、今後はその詳細なメカニズムについて解明していく予定です。

今回の最優秀発表賞は、ヒナのストレスが成長ホルモンの遺伝子発現に影響を与えることを発見したこと、研究成果が明確であること、さらに研究成果を分かりやすく説明したことが高く評価され、受賞に至りました。



発表ポスターの前で



授賞式

<農学部>

[前のページに戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#)